子犬のお迎えおめでとうございます

ぷっちんDOG'S

プロローグ

お迎えに辺り、いくつかのご案内をします。

すべての子犬に当てはまる訳ではありませんが、生き物ゆえ、様々な事がありますので、事例として

みなさまに知っておいてもらうため、皆様にご確認して頂いております。

急激に、下痢便になったら、抵抗力が下がっている証拠です。このような症状が見られれば、免疫機能が

極端に低下するので容易に感染症に感染しますので、注意して見てあげてください。

9 月～5 月頃までは、気候の変化が激しく、咳が出やすいです。風邪を防ぐワクチンもきちんと接種して

いますが、それでも子犬にとっては風邪の症状として咳が一番出やすいです。

ジアルジアやコクシジュウム、カンピロバクターや、クロストリジウム耳ダニ、回虫なども引き取り後

抵抗力が落ちた事で急激に活発化し、下痢などの症状を引き起こします。これらは、検査キットで簡単に発見

出来るので投薬で駆除すれば完全に駆除できる為、それで済む事なので、問題ありませんがパルボウィルスや

ジステンバーウィルス感染症に感染した場合は、入院が必要な程重篤になる事もありますので体調の変化に

十分注意して見てあげてくださいませ。

子育てマニュアル　http://blog.livedoor.jp/puttindogs_oodate/archives/cat_66411.html

質問＆アドバイス http://blog.livedoor.jp/puttindogs_oodate/archives/3845432.html

犬の基本的なしつけ方が大変わかりやすく書かれている大変為になるサイトをご紹介致します。

弊社もしかるのでではなく、その子犬の性質や性格に合わせてやる気を引き出し、楽しみながら覚えるしつけ方法で犬の負担や不満を感じさせる事なく、犬の行動学に基づいた褒めるしつけをしています。弊社と大変共通する部分があるサイトです。

今後、何かにつまずいた時はこちらのサイトをご覧下さい。

こ犬のへや https://www.koinuno-heya.com/index.html

犬のしつけに最も必要な罰と褒美の法則が大変分かりやすく記載されています。ブックマークしておいて必要な時にまた読み返すようにしてください。

きっと有効的なアドバイスにつながると思いますし、知識を身につける事は今後、子犬を飼育する上で大変、役立ちます。

引き取り後の注意事項

子犬は疲れやストレスにより、体調を崩しがちになります。こちらからは万全の体調でお渡しさせて頂きますが体調管理を引き続きお願い致します。虫下しもしてありますがストレスなどで腸内環境が変わると駆除しきれなかった回虫などが急激に繁殖し下痢便をするようになります。下痢便などが見られる場合動物病院で検便して増えた回虫等の駆除薬をもらって服用させてくださるようにお願い致します。

環境が変われば、悪玉菌が増え、下痢、軟便になる可能性が高いです。

とくに多いのはカンピロバクターやクロストリジウムなどの腸内細菌の異常発生です。

子犬のストレスは免疫力も極端に低下させますので子犬の体調の変化を見逃さず、適切に治療をお願い致します。耳ダニ、爪ダニなどの寄生に関しましても犬が大勢集まる環境では治療してもイタチごっこで駆除しきれないのが現状です。

お手入れはさせていただきますが治療などの医療行為は医者でないとできませんので耳が汚れて臭ってくるようであれば治療してあげてくださいね。

ワクチン時、簡単な健康診断も済ませておりますが特に獣医から指摘される部分はございません。

極小サイズの子はストレスに大変弱く抵抗力も弱いです。また、下痢や軟便の症状がでやすいのも極小犬です。極小犬をお求め頂いた方は、極小である事を十分理解頂いた上で適切な飼育をお願い致します。

9 月～3 月頃までは、咳をする子犬がとっても多いです。咳をしていても元気なら様子を見ても大丈夫ですが 1 日 3 回以上するようなら、抗生剤をもらうとすぐに良くなるので出してもらうといいと思います。

犬も子供も気温の変化についていけなくて、咳や肺炎がすごく流行ってますので気温差に気を付けて暖かくしすごさせてあげてくださいね！

窓から冷たい風が入るだけでも子犬は咳きをしてしまったりします。お引き取り後咳をしだす個体がとても多いので注意してあげてくださいませ・・・生後２～３ヶ月頃母体の免疫が切れる時期を迎えます。

その頃の子犬の特徴として、免疫が低下するため咳をする個体が多いです。５種のワクチンにはパラインフルエンザ（犬の風邪）を予防するウィルスも含まれていて、接種による抗体を作っていますが時期的に咳がつきやすいです。

こちらで咳をしていなくても、環境変化で起こります。

こちらに居る時点で咳がある場合は事前にお伝えし、お薬を差し上げますので、飲ませてください改善しないようなら診察してもらってください。咳は完治までに時間がかかります。咳はナカナカしぶとくて長い子だと数ヶ月続く場合があります。治らなければ薬の種類を変えてみたりしながら気長に治療が必要になると思います。お迎えした当日から咳が確認され、日増しにひどくなるようなら診察してもらってください。

咳は完治までに時間がかかります。咳はナカナカしぶとくて長い子だと数ヶ月続く場合があります。

人間同様、幼稚園に１人咳をしている子が居ると、みんなに感染しますよね・・・

＜事例＞

３歳児１クラスに３０人居たとして、クラスで集団風邪が発生したとします。

その場合、浮遊しているウィルスは同じでも、抵抗力の弱い子、体の小さい子、早生れの子は抵抗力にも他の子供と差がありますよね！そうすれば抵抗力の弱い子は重篤化しやすい傾向にあります。クラスで風邪をひいている子が居て、みんなに感染した場合、入院するほどの子が２～３人、点滴治療などで良くなる子も２～３人。

自宅で休んでいれば悪化しない程度の子は１０人程、その他の大抵の子は鼻水、咳など風邪の症状はあるものの、市販薬を飲ませておくと自然治癒する、または食欲が落ちるが元気はあり特に症状がでないなどとなります。その中で、咳やくしゃみが長期化する子、熱がひかない子、症状は様々です。

当店ではパピー教室（子犬の幼稚園）を行なっていますのでこのような状態と同じ環境となります。年齢的には１～３歳児クラスです。みんな抵抗力の弱い子供なので、感染しやすいです。同じウィルス浮遊でも先生は風邪が移らないのと同じで同部屋に居ても成犬には一切症状がでません。それでは、子供たちが大きくなって中学生になったとすると、同じ３０人クラスで、重篤化する子は少なく、症状が出る子も大幅に減ると思います。それは成長によって抵抗力がついたという事になりますね！

どこのご家庭でも小さい頃、せき止めシロップは常に常備するほど、常に風邪を引いている状態で風邪気味だったり、治ったり、ぶり返したりを繰り返していましたね・・・特に、夕方、朝方は咳が止まらなかったり、熱が下がらなかったり、家の娘も小さい頃はずいぶん手がかかったものでした今は成人し、滅多に風邪もひかなくなりました。

子犬の時期は仕方ないと思って乗り切って頂ければと思います。

下記の予防対策はしておりますが、現実問題、防ぎようがありませんのでご理解申し上げます。

すべてに関して駆除、ワクチンの徹底をしてますが、生き物ゆえ耳ダニ、虫くだし同様、新しい環境によるストレスにてひどくなってくる場合もありますのでその際はひどくなる前に早めに病院の方で治療してあげてください。

直前に咳が見られた場合完全に直るまでお引き渡しをしないショップ様もあるようですが、当店ではきちんとお客様にご説明、ご理解頂いてお渡しをしています。

なぜなら咳の場合、気づいた日から同じ治療してもその子によって３日で咳がとまる子も居れば２週間以上続く子もいるからです。

２週間以上様子を見るとなるとお客様の再度ご来店いただくなど、お引渡しの日がかなりずれてしまいご迷惑をおかけしてしまう為、事前にお伝えした上でお渡しいたします。

もちろん当日下痢、体調不良の場合は子犬の体調を第一に考え約束の日でもお引き渡しは出来ませんが咳の場合は、耳ダニ、虫くだし同様、お家に行ってストレスにて悪化した場合、飼い主様に治療していただいております。

下痢、咳は環境変化で起こる場合は３日程で薬の服用がなくても治るのですが気管にずっと炎症がある状態が続いた場合、気管支炎になる可能性があります。

＜当店の咳対策について＞

- ワクチン接種（パラインフルエンザ）による抗体作り
- 空気清浄機による清浄を毎日
- 安定化二酸化塩素系（犬に無害）の薬剤による室内全体の消毒を３日に１度
- ピルコン（複合次亜塩素酸系消毒剤）によるケージ、床の清掃

＜回虫駆除について＞

虫下しはしておりますが、寄生虫は駆除しても、卵までは駆除しきれませんので検便で発見される事があります。

当店では主治医に虫下しを処方していただき、処置しております。

しかし、環境変化により、食欲不振と抵抗力が下がった為、駆除しきれずに居たジアルジア原虫が活発化したという報告もございますので検便で見つかった場合は適切な駆除をお願い致します。

特に、ジアルジアなどの原虫は硬い殻を持っていて駆除しづらい性質にありますので、症状が見られた際は一定期間の薬の投与が必要です。

下痢がみられる子犬には、ジアルジア駆除の為のフラジールを一定期間服用させております。

耳ダニの寄生がみられる子犬には、レボリューションというスポットタイプの薬も使用しています。

こちらは犬糸状虫（フィラリア）の寄生予防、ノミ成虫の駆除、ノミ卵の孵化阻害及び殺幼虫作用によるノミ寄生予防、ミミヒゼンダニの駆除コクシジュウムの駆除、ツメダニの駆除。すべてに有効な薬です。

これらの薬を使用しても完全な駆除は出来ないのが現状でございますので購入規約にも寄生虫が発見された場合は駆除して下さるように記載させて頂いており、お客様には承諾頂いており、ご理解頂いて承諾書にサイン頂いたお客様のみに子犬をお譲りしております。引き取り後は獣医の指示に従い適切な駆除をしてくださるようお願い致します。

受け取り直後からストレス性の下痢する個体が多く、環境の変化で寄生虫が活発化する傾向がありますのでいた場合は駆除してくださるようお願いしております。検便で寄生虫が発見された場合は駆除をお願い致します。

当店で使用している耳ダニ駆除薬の有効期限は約１ヶ月でございます。当店でした駆除が有効に効いていれば増える事はありませんが、子犬用の弱い薬剤の為、１００％駆除は難しいです。ワクチン時にでも耳の検査をして耳ダニの有無を調べてもらってください。確認された場合は再度駆除してください。

また、ついでに検便もしてもらうことをお勧めします。その時点で寄生虫が確認されたら駆除薬を服用されてください。ただ、卵の場合は顕微鏡でも発見しづらく、見逃しがあります。駆除薬は成虫にしか効果はなく、卵は駆除できません。その為２ヶ月立って成長した頃、確認される事があります。便の状態がおかしい場合は定期的に検便してもらうと発見の早いと思います。寄生虫の成長サイクルを考えれば、お引渡し時に卵の状態のため検便で確認されず、成虫になって排泄されるので気がつく事があります。腸内寄生虫についてはみなさまに十分ご説明の上、ご理解頂いた方へお譲りしていますので、もし見られた場合は慌てず駆除をお願い致します。

≪残念ながら起こってしまった事例１≫

引き取りの翌日から、下痢を確認していたにも関わらず、獣医に連れていったのが２週間後という方がおりました。毎日糞まみれで、子犬は一生懸命鳴いて、辛い、痛いと訴えておりました。しかし、その声に気づかずにその方は、２週間たってから、毎日ウンチまみれで臭い、無駄吠えが多くなったとおっしゃいました。すぐに受診するようにお願いして一命を取り留めましたが、診察する頃には鳴く気力もなくぐったりでした。そして、引き取り後の軽い咳は気管支炎に、ストレス性の軟便は腸炎へと２週間の間に変化しました。診察までの時間が長ければ長いほど、完治まで時間がかかります。下痢が長引く事で腸炎になり、軽い咳も何度もしているうちに気管に負荷がかかり気管支炎になってしまったのです。子犬を飼育するには、観察と早急な処置が大切です。

≪残念ながら起こってしまった事例２≫

体調不良があった日、病院がお休みだったという理由から２４時間以上、餌を食べれない状態を放置してしまった為に、子犬を亡くされた方がいます。その飼い主さんは飼育が初めてで、まさか、たった２４時間の体調不良が死に至るとは想像もできなかったとおっしっていました。お仕事をしながらの飼育でしたので、仕事もあるし、病院は休みだしという気持ちで簡単に考えていたようです。病院が休みだから明日の朝１番で見ていただくつもりだったようです。診察したときにはもう危篤状態。意識混濁で手の施しようがなかったみたいです。その為、治療をせずに自宅で看取るように言われ帰宅したそうです。

元気がなく、餌を食べない事は死と隣り合わせの状態であると認識ください。餌を食べない状態が続くと子犬は低血糖を起こします。低血糖はどんなに元気な子でもエネルギーが不足すると起こりうると思わなくてはなりません。

２４時間もミルクを飲めない、離乳食を食べないのが人間の赤ちゃんだったら、放置する（様子を見る）選択は絶対にしない事でしょう・・・とても元気で活発な子でしたので、悔しくて悲しくて・・・餌を食べなくなった時点で、一度当店に相談してくれていたらその子は死なずに済んでいました・・・・その方に知識があったなら、２４時間以上、エサの食べれない子の様子を見ることはしなかったと思います。

これからは子犬の親である責任の重さをいつも頭に置いて、子犬はか弱く守ってあげなければならない存在である事を忘れずに何事も、素早い対応が必要です。生後１年未満は成長期で様々な病気も発症しやすいのでしっかりした治療を受けるために、個人で健康保険の加入をお勧めします。当店で大切に育てた命でございます。これからはバトンタッチしますので、獣医との連携を密にしてきちんと管理していただけるようどうぞよろしくお願い致します。

おむかえ直後のわんちゃんの様子について

しばらくは夜鳴き、その後はアマガミ、過度な興奮など飼育していく上で色々大変な事も起こってきますがどれも子犬が成長していく上で大切な事なのでしっかり受け止めて子育てしていただけるようお願いします。

わんちゃんは言葉を言えませんので、唸り（威嚇）や吠え（要求）で感情を伝えます。

よく、犬が反抗するのは服従関係が崩れているためだといいますが、関係が壊れてしまっている場合は嫌なことをされて、威嚇するとかの程度でなく、何もしていないのにいきなり噛まれるとかであればそういう

可能性が高いですが興奮して噛んだ場合や拒絶で噛んだ場合などは、犬のコミュニケーション方法（威嚇してやめてほしいと伝えている）と考えてください。

声なき声に気がついてあげられず、叱ったり、嫌がることをこのまま続けたりしていると信頼関係を無くしてしまい、どんどん関係は悪化します。犬は嫌なことをやられればやられる程、反抗することでしか表現できませんのでお互いに良い関係が作れるように努力して子育てして下さいね。

子犬の頃はどの子もスイッチの壊れたおもちゃのように、走り回ったり、人に飛びついたり、家の中を物色したり、ずっとずっと何かをしている場合が多いですしかし、環境管理とトレーニング、ワンちゃん自身の成長も伴い、大人になればしっかり人に注目するいい子になります。基本的な躾は完璧に済ませてありますので、人に対して従順でとても良い子に育っております。すぐに、懐いて愛敬を振りまいて家族の太陽になってくれると思います。後は、ご家族でしっかりと引き続き愛情たっぷり育ててあげてくださいね。

元気すぎて困ったとおっしゃる方がいますが、子犬は元気な事が当たり前で静かな場合は、病気が隠れている可能性が高く注意が必要です。元気がいっぱいなのは個々の性格で活動的な子は、「何かしたい！」という気持ちが強いですので、常にやる事を与えてあげて下さい。留守中は食べ物を詰めるタイプのおもちゃなどで忙しく過ごさせてあげられると、良く遊び良く休むお留守番ができるようになると思います。

大人になれば、それなりに落ち着くと思いますが、性格が変わる、という意味ではありませんので、ある程度の落ち着きのなさは、残るかもしれません。でも、落ち着きがない＝エネルギーが余っている＝何かしたくてたまらない＝とにかく活動的に動かしてあげるといいと思います。

いつでも人間の立場からではなく、犬が今どんな事を考え、どんな事を思っているのか今何して欲しいのか、立場を逆転して考えてあげてください。犬がなにかアクションをする度に、今何してほしいのかを考える癖をつけてください。

同じ噛む動作でもアマガミは親しい人に親愛を込めて行う好意です。楽しかったり嬉しかったりすると、興奮状態だとアマガミも増えますし、たまに間違えてガブっと噛むことがよくありますが間違えただけなので叱らないでください。

基本的に小型犬は叱らずに褒めて伸ばす事が大切です。叱るしつけだけは絶対にやめてくださいね！

犬は言葉を使ったコミュニケーションはできませんが、威嚇で拒絶を伝えたり、アマガミで興奮や愛情を伝えたりします。しっぽの動きだけでなく、全体の態度や行動から感情を読み取ることができます。言葉を持たない犬にとって、飼い主様がどれだけ自分の気持ちを理解してくれるかは大変重要です。

飼い主様が自分の気持ちを理解してくれる犬は幸せですが、人間の立場から、あれもこれも問題行動であると判断してしまうのならとてもかわいそうな犬です。

犬の気持ちを理解してあげるように沢山の努力してあげてくださいね。

今はネットで検索すると様々なサイトを見ることが出来ます。とにかく、沢山の情報を入れてその中で、正しい答えを探っていくという方法が一番いいと思います。

中には、言うことを聞かない場合、叩く、蹴るなど、トイレを失敗したら、失敗した床に鼻をこすりつけて叱るとか、鼻を掴んで力で押さえつけるなどとんでもない事も書いています。そこがネットの恐ろしい所です。間違ったしつけをしないように十分ご注意くださいね！

叱りつける人間の立場だけを主張したしつけは絶対やめてくださいね！

よろしくおねがい致します。

小型犬に出やすい特徴について

◎涙やけ（マルチーズ系、プードル系）

涙やけとは、犬の目の周りの毛が赤茶色に変色してしまう状態です。犬の目から涙が何らかの原因で、常に目から溢れているため起こります。特にマズルの短い子犬、極小の子犬には多く見られます。原因は様々です。逆睫毛、鼻涙管が細い等、あと添加物の無いフードに変える事により改善される場合も多数あります。また、目の周りの筋肉の発達により、成長と共に改善する子もいます。程度は一緒でも毛色の薄い子は目立ちますので毎日ホウ酸水で目を拭いてあげるだけでだいぶ改善されます。

◎外耳炎（マルチーズ系、プードル系）

症状としては耳をよく掻く、首を振る、耳から異臭がする耳が垂れている犬種には特に多いです。綿棒を使って掃除・・はNGです。耳ダニの場合は駆除で済みますが、外耳炎の場合は治療が必要になります。

◎パテラ（膝蓋骨脱臼症）（プードル系、ポメラニアン系）

後ろ足の膝蓋骨は通常、膝関節の中央にあるべきですが、その正常な位置に収まらず外れてしまった状態が膝頭骨脱臼です。この病気には、外傷性（後天性）と遺伝性（先天性）があります。外傷性（後天性）は、打撲や落下といったことが主な原因になります。遺伝性（先天性）の場合は、出生時点から膝関節の発育不全、膝関節周囲の筋肉や靭帯の異常があるとされています。外傷性の場合は、オーナー様ご自身が心当たりのある事だと思いますが遺伝性（先天性）との断定は幼少期ではできません。実際にトイプードルやプードル系ミックスとには、とても多いです。健康な親からでも出るケースもあり、知る範囲でも１頭も出てないブリーダーはありません。

それだけ、当たり前に在ることとご理解ください。尚且つ、幼犬の約９割以上は、お膝の緩さがあります。（極小犬は特にほとんどです）

極小サイズの場合は、通常の子と比べて成長も緩やかですので、しっかり歩くようになるまで時間がかかる事もよくあります。足の骨自体が細くて華奢な作りなので筋肉が付くのも遅いので生後半年位までは様子を見ることが必要です。また、床が滑らないようにして１日数分歩いて筋力をつけさせるようにしてあげるなど、極小犬ならではの工夫が必要になります。また極小犬の場合、すべてのパーツの作りが小さいのと、筋力も弱いためヘルニアも多いです。こちらも筋力が付いてくると閉じる事が多いので様子をみてください。

またお引渡し時の獣医さんによるチェック時になんとも無くても、２～３年後になる場合もあります。

プードル系の小型犬の足の骨の構造とは、もともと脱臼しやすい構造になっており、獣医さんによれば、プードルの半数はグレードの診断のつくパテラと診断されて、残りの半数はキャリア（症状がでていないが関節が弱い）との話もあります。

また、飼養管理で、改善できる疾患でもあります。グレードは１から４まであり、１～２は分からないで過ごしていることも多いようです。中にはグレード３のまま足を引きずる事なく過ごす子もいます。２以上で常に足を上げたり、ケンケンしたりし、歩行に支障をきたす場合は手術を勧める獣医さんは多いです。
手術と言われた場合は、１つの獣医さんだけでなく手術経験の豊富な獣医さんのセカンドオピニオンは必ず必要です。このパテラに関しての見解はあくまでも獣医による触診ですので、１つの先生の見解が絶対では無いからです。

現在は手術せずに、グレード３でも普通に生活している子も多く、症状がない場合は手術せずにサプリメント療法や補助屈伸運動で改善できます。ある方は生後４ヶ月の時にパテラグレード３と診断されましたが、成長してみたら、グレード付けは０になりました。フローリングには、全て絨毯を敷き、滑らない様にして、後ろ足２本でのジャンプ等なるべくさせない工夫をすることで改善できます。パテラを、幼少期から厳しくグレード付けされる獣医師もおられますが成長過程において、お膝も成長しますので、幼少期のグレード付けはアテになりません手術を進められるがまま安易に受けて、麻酔で死亡した例もいくつもあります。痛みもなく、日常生活に支障がなければ様子をみて、負担の無いよう配慮しながらの生活が賢明と思います。

◎停留睾丸（男の子）全犬種

陰嚢内に落下するはずの精巣が落下せず、そのまま腹腔内に貯巣されてしまっている状態を言います。１年で下りて来る場合もありますが、小型犬には多いです。片方だけ下りる場合もあります。停留睾丸は悪性腫瘍になるという話を聞きますが、医学的根拠はありません。幼少期に、睾丸が二つ確認できた子でも、陰嚢に収まるまでは、上がってしまう子もたくさん居ます。幼少期の睾丸確認は、触れた。と言う意味合いです。陰嚢に収まっていると断定するのは個体差もありますが１歳前後までわからないのが現状です。

◎異所性尿管（特にプードル系のメスに多く発症）

子犬の場合おしっこが垂れるという症状がある場合があります。原因はいくつか原因が考えられます。

ひとつはまだ幼いので、排泄機能が不十分である事があげられます。犬は生まれた時から母親が舐めて排泄を促すので、ちょっとした刺激で尿漏れする事があります。例えば、ベッドに寝ていて陰部にタオルが触れ、ほんの小さな刺激でもまだ反射排泄が起こります。

また、幼い頃は、飛び跳ねたり走ったりしても漏れますし、うれしいときや怖いときなどもお漏らしします。俗に言う「うれしょん」や「びびりしょん」です。膀胱括約筋や尿道括約筋などの調節がまだうまくできないために幼い時は感情が高ぶるだけでも漏れてしまうのです。

また、子犬は排泄回数も多いため、陰部が汚れてしまう事はよくあります。

もうひとつは、細菌感染によるものです。抵抗力が弱っているときには様々な感染症に掛かりやすくなります。人間でも同じように、抵抗力が弱るとカンジタやトリコモナスなどの常在菌が増え、おりものが増えるなどの症状が出ることがありますね・・・そのような場合はうまく排泄が出来ず、数回に分けてするようになり、排泄の後もぽたぽたと垂らして歩く事があります。

感染に関してはメスの体の構造に関係しているため、メスの方が感染症に掛かりやすいです。感染症である場合は一定期間薬を服用することで改善されます。

成長と共におもらしの頻度が増えて来た場合は、「異所性尿管」である場合があります。膀胱に貯まるべき尿が無意識に排泄されてしまいます。これはプードル純血種に多い先天性の疾患なのですが、プードル系

ミックスにも起こる可能性があります。異所性尿管とは、腎臓から膀胱へ尿を送るための尿管が、膀胱以外の場所にくっついてしまっている状態です。

この場合の症状はこわれた水道の蛇口のように、常に意識をしないまま尿が出つづけてしまいます。その為、その子の居た場所はびしょびしょになってしまいます。立たせて見るとよくわかります。数秒単位でぽたぽたと尿が出つづけているのが目に見えてはっきりとわかると思います。

トイレの後しばらくだけポタポタと垂れている場合、膀胱炎を起こしている可能性やあるいは生後５ケ月以降から頻繁になると言う場合はそろそろ発情が来るということが考えられます。

幼い内はまだ様子を見るしかできませんが、有る程度成長した段階で、「異所性尿管」を疑う程症状がひどい場合は、一度病院で造影検査をしていただければ、状態がわかると思います。

医療事情セカンドオピニオンのお勧め（実例）

＜１０万頭に１頭の病気＞

足と鼻の周りの皮膚がただれ、Ｂ獣医さんに行きましたが、改善が見られないのでＫ獣医さんに行った所、これは１０万頭に１頭の珍しい病気で完治はしないが、以前にも診たことがあるので任して欲しいと言われたそうです。その後、Ｋ獣医さんからステロイドを服用され、２週間後には何事も無かったように完治しました。

完治しない病気がそう簡単に完治しません。難しい病名を吹っかけ、再来さそうとする手段のようです。

この獣医さんは鳥の骨を食べた子も開腹手術しようとしましたが、セカンドオピニオンの他の獣医さんにて何事も無く消化されでてきました。

医療関係、飼い主様を悪く言うつもりはありません。過去の実例を踏まえ、事故を未然に防ぐ為に少しでも参考になればと思い書かせていただきました。

＜パテラの誤診断＞

２頭目のプードルを購入されたお客様の件です。１頭目にペットショップから購入されたプードル君がＡ病院でパテラグレード４（一番重症）と診断され、次ぎは手術だと言われご相談を受けました。手術の前にもう一件セカンドオピニオンが必要と思い、Ｔ病院を紹介いたし診断の結果、たいした事は無い、グレード2、サプリで様子を見ましょうと診断され、緑茶成分のサプリを継続し服用したところ、足もあげる事も無くなり元気になっております。

パテラはトイプードル犬種に多い病気ですが、捻挫でもパテラと診断する獣医さんもおられます。

仮に、手術が必要と言われた場合は、外科に強い獣医さんのセカンドオピニオンは100%必要です。手術も難しい手術で無く、経験豊富な獣医さんでしたら完治も早いです。飼い主様はリハビリが大変ですが、２ヶ月後には普通に歩けるようにあります。

パテラにならない為にも特に成長期には筋肉強化、足の滑らない環境作りも大事になってくると思います。

＜ドッグラン、ドッグカフェの注意事項＞

都会のあるドッグランでのことですが、雨水が溜まっており、それを飲んだワンチャンが２．３日後下痢、嘔吐の症状が 2.3 頭にでました。うち１頭は血便が続き３日入院し開放に向かいました。

病原菌をもったおしっこが雨水に溜まり、集団感染と思われます。このような話は、ドッグラン、ドッグカフェではよくあるようですが時として急性膵炎、急性肝炎になり長期にわたり食事改善まで至るケースもあります衛生環境は飼い主様の目で確認してください。

＜胃腸炎を異物混入（手術）と診断＞

生後 100 日の子の件です。生後１００日の子が下痢と嘔吐で病院にいくと、先生は異物混入と決めつけバリウムを飲ませレントゲンを撮りましたが、形跡も無いのに、明日までまって異物が出ないと開腹手術を行うと言われ飼い主様から連絡を頂きました。お話をきくと２４時間近く何も口にしておらず、その獣医からは一切食べさすなと言われたそうです。しかし、何も食べて無いので低血糖になるから、砂糖水（ブドウ糖）を飲ませるよう指示し、飲ませましたら少し元気になり、その後食欲も出てきました。数日間当店でお預かりして看病して大事には至りませんでした。このまま何も与えず様子をみて居たら確実に死亡していた事例です。当店の機転で数日後には元気を取り戻しました。

この例は極端な獣医さんのお話ですが、私が以前かかった獣医さんは顕微鏡で腸内細菌も識別出来ません。犬の場合、免疫力が落ちた時や、ホルモンバランスが崩れた時に、腸内細菌（悪玉）が増え下痢、嘔吐の場合も多々あります。成犬なら体力もありますが、子犬の場合は処置、スピードを間違えば命とりになります。

＜膀胱炎を放置すると膀胱結石に繋がります＞

生後５ヶ月で血尿があり、生理が来たと思い獣医さんに行きましたら、そういう子もあると言われました。その後おしっこも頻繁になりおかしいと感じながらも、獣医に行くと躾が出来てないと叱られると思い２ヶ月放置し、獣医さんに再度見てもらうと膀胱に石が数個確認され手術となりました。獣医さんは最初から石を持ってたとのお話のようです。またその獣医さんはその後、ご飯はＺＤ（アレルギー用）を与えたそうです。

膀胱結石は遺伝しません、普通は５．６歳に多い病気で食生活、水、ストレスから影響があると言われております。膀胱炎を放置すると細菌が核となり結石になる事例も多くあります。膀胱炎を見逃さずに早期処置をすれば避けられてた可能性は高いと思われます。

躾もトイレが出来なかったからと叱り過ぎると、おしっこを我慢し過ぎて膀胱炎になり易くなります。幼少期（生後60日位）から結石が出来てる事はまずありません。膀胱炎、結石になると、再発しやすいので注意が必要です。

＜お産について（小型犬のメス）＞

可愛い我が子の赤ちゃんが欲しいと思われている飼い主様は多いと思います。

しかしお産はママ犬にとっては命がけで危険と隣り合わせです。犬のお産は簡単と思われている飼い主様も多くおられますが、実際は違います経験豊富なブリーダーでも失敗の例は多くあります。私は飼い主様のお産は決してお勧めいたしません。

理由として、お産は母、赤ちゃん、ブリーダーの連帯作業です。

出産までの日々の観察力、状況把握、経験が必要です。

異常があった場合は、スピード、決断を間違うと、赤ちゃんは勿論ママも亡くす事になります。ママ犬は妊娠の過度のストレスにより、脱色や体調不良も見られます。

赤ちゃんが無事に生まれても、授乳管理、体重管理も毎日何回も必要です。異常を早期に発見し臨機応変な体制、経験により事故を防ぐケースが多々あります。獣医さんにつきましては、24時間連絡が取れる関係の構築、またお産の経験が多い獣医さんが絶対条件になります。

また安易な交配でのスタンダードの低下、生まれた子を最後まで自分で観れるかどうか？安易な交配で保健所に行く子も増加しているのが現状です。飼い主様が我が子の事を考えて、よくよく検討してください。

生命保証

生命保証は無償提供させて頂いておりまして、弊社では３０日の死亡保障の他に生後６ヶ月までに先天性の病気で死亡した場合の瑕疵担保責任も付属しております。瑕疵担保責任は死亡時に生体の半額を保障する内容となっておりますが、死亡に至らずとも、重篤な先天性の疾患により手術をした場合は、生命保証の金額と同等の２万円を上限にして、御見舞金をお出ししております。お迎え頂いた子犬の症状が先天性の疾患であると確定して、手術を受けた場合はお知らせください。なお、手術によっては生後６ヶ月未満では出来ないものもございますので、保証は６ヶ月未満となっておりますが、お見舞金はその限りではございません。但し、症状が疑われて診断を受けた際（セカンドオピニオンも必須）には一度ご連絡頂きたく存じます。

その上で本当に手術が必要であるか、またその手術はその子にとって負担の掛からない方法で安全に行える手術であるのか、負担を掛けて手術しなくとも、症状を安定させながら工夫して暮らせる方法はないのか一緒に考えさせて頂ければ幸いです。

甘噛みと過度な興奮について

ブリーダー仲間のお客様の所で過去に一度だけ、甘噛み、過度な興奮を正そうとしてあってはならない事故が起こってしまったことがあります。子犬の甘噛みや興奮を理解できないまま、しつけに熱が入りすぎて、叱りすぎ（マズルを抑えすぎたことによる圧迫からの窒息）から死なせてしまった方がおります。死亡に至るまで締め付けたわけではなく、興奮を抑えるためのしつけとして服従関係をつけようとして強くそして長く締め付けたことにより、低酸素状態になり、数時間後に亡くなってしまいました。

そのため、皆様には、子犬の甘噛み、過度な興奮について知識をしっかり持ったうえで子犬の飼育をお願いしたく、お知らせさせて頂きます。

みなさん、お迎えしてから一番手を焼くのが甘噛みです。

甘噛み対策として、幼い頃からおもちゃで遊ばせるように指導もしておりますが、成長とともに本能が芽生えてくると過度な甘噛み行為が目立つようになります。

生後２か月～７か月くらいまでが甘噛みが盛んな時期でちょうどお迎えする頃がピークとなりますのでお迎え後数日から甘噛みに悩まされることになります。

甘噛みの対応について

激しく噛みついてきたら遊びは終わりにします。おもちゃを振ったり、音を出したりして興味をおもちゃへ向けるように誘導します。おもちゃに視線が向いたら、おもちゃは放ってくださいおもちゃに誘導されてくれればいいですが、それでも手に飛びかかってくるときは、手は腕組みして、後は石のように動かないことで遊ばないと意思表示します。諦めて、おもちゃで遊んでくれるまで続けてください。

甘噛みしたことを体罰としてケージに戻すとケージに入りたがらなくなるので、甘噛みしたら戻すというパターンはあまりよくないです。座っている時に足を狙って噛みついてくることもよくある甘噛みパターンです。手や足は、飼い主さんの匂いが強く感じるので犬は大好きなんです。

毎日体に触れて撫でて指導しておりますので、体を触られたりなでられたりするのは嫌いではないはずなのですが撫でられたい欲求よりも甘噛みしたい欲求が勝って、撫でる手に噛みついてくるのも典型的甘噛みパターンです。

幼い頃は撫でられる刺激の方が良かったけれど、成長と共に行動的になり、本来備わっている噛みたい本能が旺盛になります。犬は噛んで確かめる動物ですので、なんでも噛みます。それが、本来の犬の姿です。

足元にまとわりついて噛みついてくる場合の対策

足元にまとわりついて噛みついてくる場合の対策をお教えします。子犬の視線からはちょうど人の歩く足元が見えていてそれが動くので追いかけて遊びたくなってしまうんです。足元を噛んでくるという事は、歩く動作にじゃれついていることなんです。

動く足に噛みつくと飼い主さんは足を引っ張るので、犬は「引っ張りっこ遊びだ！」と勘違いをしてしまい、楽しくなって余計に噛みついてきて悪循環が起こります。この行動は、ほとんどの子犬がします。甘噛みと同じで、成長過程の通過点です。

成長してくると、噛む力が強くなる一方で、甘噛みの癖は抜けずに苦労する事もあります。犬は「飼い主さんも喜んでる！もっと遊ぼう！」という気持ちになって、より強く噛んでくることもあります。

対処法

対処法としては、人間の手は噛むものではなくイイコトをしてくれるもの、ということを覚えてもらう必要があります。手から直接フードをあげ、たくさんなでてスキンシップしてあげることが重要です。

噛むことでストレスを発散する効果もあるので、噛む専用のおもちゃをあげたり、引っ張りっこで遊んであげたりなど、噛む欲求を存分に満たしてあげてください。臨機応変な対処をして、犬がストレスを感じない方法で正してあげてくださいね！

足元への絡みつき、噛みつきも子犬自身は楽しんでいるので、（腰を上げてしっぽを振りながら噛みついてくるときは、楽しんでいます。）無理にやめさせようとするのではなく、犬の興味を足元より上の方に逸らす方が効果的です。

対策として

・名前を呼んで足元から興味をそらして、視線を上に向けてできたらフードを与えてほめる

・足元に絡みついてきたらロープやおもちゃなどの興味があるものを見せ、視線が上に向くように誘導する

こういった方法で、目線を上に向ける癖をつけてあげてください。サイズが大きくなると視線は足元だけでなく全体をとらえる事ができるようになってくるので足元への絡みつきは成長と共に減ってきますので、甘噛み同様、子犬特有の行動と念頭に置いて上手に付き合ってあげてください。

甘噛みと興奮は、子犬の時の正常な行動ですので暖かく見守って頂ければと思います。

子犬の成長過程に甘噛み、興奮はありますので、その時期を乗り切って頂くためにもご自身でも色々調べて対策の知識をしっかりと身に着つけて頂ければと思います。どうそよろしくお願いします。

夜鳴き、朝鳴きについて

夜中に鳴いている場合は、鳴くたびに行って抱っこするよりは、夜は鳴いても来てくれないと覚えてもらった方が楽ですので、そのままにして諦めてくれるのを待った方が賢明です。

傍に誰も居なくて、不安で鳴いていますので、傍に寝るだけでも、安心して寝付いてくれることもあります。逆に、傍にいるからこそ、抱っこしてほしくて甘え鳴きが激しくなることも考えられるので、どの方法があうかはその子によって異なりますから、色々やってみてどの方法が一番良かったのか実験してみるといいです。

又は、夜間はケージから２メートルほど離れたところに寝て、ケージはシーツで覆って、人に気配は感じても姿が見えない距離感で同室にいてあげるだけでも、最初は鳴いて叫んで訴えますが、諦めてくれる子もいます。

どちらもダメな場合は、布団に入れて抱っこして寝てあげるのが一番いいのですが、これをやると一生と覚悟しなければなりません

夜は比較的寝てくれて、朝方鳴くのは、鳴かせて置いた方がいいです。

明るくなれば目が覚めて人恋しくなって鳴いて呼びます。

ご家族の起きてくる時間がまだ理解できないためなので、鳴いても、この時間までは来てくれないんだとわかるまで続きます。わかる時期はその子次第です。

朝方鳴くからと４時とかに、起きて構えば、その時刻が起きてくる時間、又は鳴けば起きてくると覚えてしまいます。

朝の起きてくる時刻を覚えてもらう事は長期の期間を要する可能性が高いので、近所迷惑とかを考えてどうしても鳴かせられない場合は、朝方鳴いたら布団に入れて抱っこして寝るでもいいと思います。

そのようなパターンで学習させるのも、鳴くのを防ぐ目的ならありかもしれません。

基本的に不安が解消されれば鳴き止むので工夫してやってみてください。

下痢や軟便、ゼリー状の便、食欲不振について

成長期は腸内粘膜が頻繁に入れ替わりますが、不要になった粘膜は剥がれ落ちてウンチと一緒に出ます。その中に血が混じるものですので、心配は要りません。血と一緒に半透明のゼリー状のものも一緒にあるはずです。それが腸内粘膜です。もし、胃腸に問題があった場合は、「血が混じっている程度」ではなく、便が血そのもので、全てが真っ赤でサラサラの状態で出てきます。普通のウンチの固さで、半透明のゼリー状の物と一緒に血が混じっているだけなら、時々起る普通の事ですので、心配はありません。

食欲のムラは通常でもみられますが、フード以外の缶詰やササミも嫌がる場合は食欲が減退している状況なので様子をしっかり見て、何度か、与えても全く食べない場合は早めに受診してください。性格の明るい子は表にでないけれど、環境が変わったことによるストレスが蓄積されて１～２週間してから体調を崩す子が多いです。神経質な子は送犬準備の段階でストレス性の下痢をしたりする子もいます。性格の違いによりストレス性の下痢や胃腸炎は発症時期が異なります。

下痢やゼリー状の便はストレスなどにより腸壁などが荒れている時に出やすいです。ゼリー状の便が多量であり、排便の度に何度も出るようなら原虫が原因の場合もあります。

回虫駆除は施行してから間もないので、居ないと思いますが、２重駆除は子犬の負担になりますので、一定期間空ける必要があります。

基本的な回虫などは駆虫剤を投与すればほとんどの虫は駆虫できます。ところが原虫とよばれるミクロの虫たちは細菌のように小さく抵抗力が低下しているスキを狙って腸内を荒らすことがあります。細菌にちかい

虫ですから駆虫剤は効果がないので殺菌剤や抗生物質のようなお薬でなくす方法で退治します。駆虫する際にはきちんと便検査をして何の虫が下痢などの原因になっているか調べる必要がございます。

このとき注意したいのが原虫類は通常の便のみの検便では発見されないということです。便は1分以内で検査しないと原虫類は死んでしまうので発見が難しいのです。原虫検査には子犬を直接獣医師に連れていき腸内の便を肛門から直接採取して行う必要がございます。

原虫類はコクシジュウムやトリコモナス、ジアルジアといった虫が一般的です。

コクシジュウム、ジアルジアには硬い殻があるので一定の期間薬を服用しないと効果が発揮されない性質なのできちんと投与します。検査で原虫が見られた場合は獣医の指示どおり一定期間与えてください。ジアルジアやトリコモナスは主にフラジールとよばれるお薬を使用します。当店では便に異常がある子犬にはフラジールを一定期間服用させております。しかし、すべての原虫の駆除には至らないことはご了承下さい。

今は検査キットや検便で極わずかな原虫を調べる事ができます。今の検査キットは大変高性能なので極わずかでも反応します。

しかし、人間も同様ですが、生き物は微生物や寄生虫、ウィルスなどと共存の上生活しております。

例えば人間が血液検査をすれば、普段何も気がつかなかったモノにアレルギー反応が強く出ることがあります。通常、枕や布団には数億のダニが寄生していて、その中で生活していても支障しないけれど、検査結果を見てしまうと過剰に心配ばかりしていなくてはなりません。

パルボは発症すれば重篤になりますが、ジアルジアなどは共存しても支障しない個体が多いですし、ウィルスや寄生虫、原虫に過度な心配は不要です。

しかし、環境変化により、食欲不振と抵抗力が下がった為、駆除しきれずに居たジアルジア原虫が活発化したという報告もございますので検便で見つかった場合は適切な駆除をお願い致します。

病院選びについて

Ａ動物病院とＢ動物病院の診察を比べてみましょう。

条件は同じ、生後２ヶ月の子犬で迎えてから１週間、食欲不振と軟便が見られるが元気はあり、ササミなどは食べるがフードの食べ付きが悪い状態で受診とします。Ａ動物病院とＢ動物病院ともに検便をして、回虫は認められず。

Ａ動物病院

Ａは元気もありますし、ササミなどを好んで食べるようなら、しばらくは食べる物を多めに食べさせてください。回虫は認められませんが下痢がある場合は原虫などの可能性が高いので薬を１週間分出すので飲ませてください。それでも食欲が戻らず下痢が続くようなら、後日また来院してくださいと返しました。診察代金は約４０００円程度です。

Ｂ動物病院

Ｂは食欲が無い為、輸液などの点滴をして、下痢があるという事でジアルジア検査キット使用、パルボキットまで使用し、血液検査で数値を細かくチェック。検査キットで疑わしい原虫駆除の薬を処方、感染の可能性を見るため先住犬にも同等の検査を施し、駆除の具合を再度調べる為に２頭それぞれに同じ検査を２回繰り返しました。診察代金は約５００００円です。

どちらの診察を受けても子犬の症状は落ち着き回復しました。しかし、Ｂの場合、検査などのストレスにより、体調を崩し瀕死の状態になり処置にさらに￥２００００程かかりました。

Ｂは検査したので目に見える数値の証明は残りましたが、犬には過酷な検査を強要し結局ストレスでさらに悪化する結果になりました。Ａの場合は、余計な検査はせずに、先生の長年の感で適切な薬を処方した為、費用は格段に安い上に、結果は同じとなりました。

検査などをいくつも繰り返す診察を良いと思う方も悪いと思う方もいらっしゃいますのでどちらが良いかは受ける側のお考え次第ですが検査などを何度も行う診察＝膨大な検査費用となります。検査により様々な事がわかりますが検査代金が多額になり、子犬にも相当な負担をかけてしまいます。先生に言われるままに何度も検査を繰り返したらお金がいくらあっても足りなくなりますし、何より飼い主の過度な心配により検査漬になる子犬が気の毒です。

当店の考え方は、Ａ動物病院と同じで微生物や寄生虫、ウィルスなどと共存も生き物世界では仕方ないという考えで疑わしい場合や支障する場合は駆除していくという考えです。これらの共存なしに命あるものの存在はありえないと私は考えております。当方の主治医がＡ動物病院です。その為、検査はあまりしません。検査する費用と時間があるなら、予想される治療をすぐに開始するという治療方針です。その為、下痢、発育不全、長期に渡る軟便などの症状がある個体にはすぐに薬を投与しますが、順調に体重が増えている健康状態の良好な個体に関しては、長期服用が必要な投与になるため子犬の負担を考えて原虫駆除まではしておりません。検査により発見された場合は駆除をお願いします。

先生はみなさんそれぞれポリシーを持って診察されていると思いますのでまずは自分の考え方と同じ治療方針を持つ獣医と出会える事が一番です。生後１歳までは生涯の内で最も病院に通う頻度が多いです。様子を見る選択が一番適切ではありますが、様子を見た為に悪化させてしまった例もあります。

逆に様子を見るべきなのに、すぐに病院に連れていった為に検査漬けでただでさえ、ストレスの掛かりやすい個体にさらにストレスが追い打ちをかけて体調が悪化し、様々な合併症を発症した個体もいます。

軟便、ゼリー便などによる今後の受診は飼い主様の判断となりますが、これらの症状が見られたらきちんと伝えれるようにしばらくはウンチの回数や状態、ご飯のたべた量、元気があるかないか、など細かくメモしておいたほうがいいと思います。すでに信頼できる獣医さんが居る場合は、お電話で症状を話して指示に従うのもいいと思います。受診の為の移動や診察は子犬に負担をかけますので、元気ならなるべく様子を見る選択がいいと思います。様子を見るという選択の中で一度先生に様子を相談していると、先生も状況がわかりやすく、急な受け入れの対応もしてくれると思います。

ジアルジアなどの原虫類やキャンピロ（食中毒の原因になる菌）が発見された個体でそれが原因で体調不良を起こした場合はその個体はストレスに弱く、抵抗力が下がりやすい性質（自己免疫システムが弱い個体）と言えると思います。これは環境ストレスによるものなので常に弱い訳ではなく、一過性ですが、今後ストレスがかかる状況がある場合は体調が崩れやすくなります。犬も人間同様、それらの菌に反応する個体もあれば全く症状が無い個体もあります。その子によって性格も性質も異なり、重症化しやすい個体もあります。我が子の性質、性格を知ることも体調管理する上で重要です。今後、頻繁に体調不良になりやすい体質だと思ったら今後の安心のためにペット健康保証に加入される事を検討されてもよいかと思います。健康保証（死亡保証を除く）は治療費など請求する事ができます。

ペットの受診代金は高額ですので、健康保険の加入は家計の大きな助けになります。

人間同様、成長すれば抵抗力も付いてくるので、生後１年間だけ加入しておくというのも良いのかもしれません。当然、住む環境が変わることによるストレスで暫くは環境の変化で体調を崩しがちになる事は覚悟しておかなければなりません。飼育環境（温度、湿度）が適切であっても住む場所の変化で精神的、肉体的に疲労数値があがるのが普通です。環境の変化に伴う常在菌の変化が原因で、到着直後～１ヶ月以内に下痢などの症状が出る事が多いです。抵抗力がある際は平均値にとどまるが季節、住む場所の変化でバランスが崩れることがあり、量が増えすぎると症状として現れます。このような常在菌、虫については一過性のことが多く自然治癒するので様子をみますがあまりにも症状がひどい場合（ぐったりしている、食欲が無い、下痢が続くなど回復に向かわない）は受診が必要です。子犬は抵抗力がなく、弱り易いので、下痢による脱水、食欲減退による低血糖を併発することがあるのでその際は処置が必要になります。

今、ペット保険は様々な会社から発売されておりまして、色々調べてご自分に合う保証を選択する事ができます。

動物病院やホームセンター、コンビニなどでも簡単にパンフレットの入手が可能でございます。

回虫について

下痢便がみられる子犬には、お譲りする直前に回虫駆除の薬を投与しております。その為、お迎え直後、または数日で回虫が便に混じって排出されてきます。投与後すぐに反応が無くても、数週間してから排出される場合もあります。また、たまたま卵の状態のタイミングだった場合や、最初から寄生していない場合も排出されません。犬回虫とは消化管内の寄生虫のうち、最も一般的に知られている寄生虫です。白くて細い５～１０センチ程の、素麺のような虫です。初めての方は、ニョロニョロと動く姿に驚くかもしれません。

怖がる事はありません。子犬が、動く虫に興味を持って口に入れてしまわないように、見つけたらすぐに、テッシュに包んで処分してください。回虫は犬の腸に中でしか生きられないので、外気に触れると数分で死滅します。

当店では、回虫症を疑われる個体に対しては「レボリューション」を使用しております。「レボリューション」は定期的にご使用していただけると完璧に駆除できますし、犬糸状虫（フィラリア）の寄生予防、ノミ成虫の駆除、ノミ卵の孵化阻害及び殺幼虫作用によるノミ寄生予防、ミミヒゼンダニの駆除コクシジュウムの駆除、ツメダニの駆除これら全部駆除できます。

当店では色々使用してみましたが、レボリューションは一つで何種類も駆除出来るので一番よかったです。回虫駆除には定期的な投与が最も重要です。フィラリアも定期的に１ヶ月に１度駆除しますよね！それと同じで、回虫などは卵が成長して成虫になるシステムを持っているので定期的に駆除してあげてくださいませ・・・

ジアルジアは硬い殻があるので一定の期間薬を服用しないと効果が発揮されない性質があるので全ての駆除は出来ないので、引き取り後検便をしてジアルジアが居たら獣医の指示を受けて、フラジールという薬の一定期間の投与を行なってください。

膝蓋骨脱臼について

お迎え頂いた子犬は股関節や膝蓋骨が弱いと言われる超小型犬の部類に分類されます。当店では足を引く行動なく、元気に走り回っていたので特別な検査は依頼しておりませんが異常を感じられたら早めに検査を

してください。現状では初めて動物病院を来院すると、プードルとポメラニアンには大抵９０パーセント以上の医師が股関節または、膝蓋骨の弱さを指摘しますがその殆どが、手術に至るケースはありません。プードル、ポメラニアン、プードル系ミックス、ポメ系ミックスの飼い主様のほとんどが病院で言われているようですが、医師の言葉を過信しすぎず必ずセカンドオピニオンを行なってください。

幼い内は筋力も弱く関節が弱いのは当然なので、歩行にふらつきなども見られる場合がありますが、対策としては、過度なジャンプをさせない事と、床をじゅうたんにして、足が滑るのを防ぐ事などが挙げられるかと思います。もし、成長過程で足を引きづって歩けなくなり、びっこをひいて歩くようになった場合は、関節が外れた状態なのかもしれませんので早めに受診してあげてください。よろしくお願い致します。

子犬のジアルジア症について

子犬が一番感染しやすいのがジアルジア症です。当店では下痢がみられる子犬には、駆除薬を投与しておりますが、ジアルジアには硬い殻があるので、少ない量の薬を長期服用しないと効果が発揮されない性質なので通常は長期間投与しなければならないです。しかし、お引渡しの時期などの都合により当店では、駆除対象の個体のみ一定期間の投与ですので、確実な駆除はできないです。検査で原虫が見られた場合は獣医の指示どおりの日数の投与をお願いしております。ジアルジア症には主にフラジールとよばれるお薬を使用します。

通常は、環境変化により、ストレスがかかり抵抗力が低下したタイミングで、ジアルジアは急激に増えます。お引渡し直後から症状がでる子が一般的ですが、ストレスに強い子はお迎え後２～３週間してから（長期的な疲れがたまった頃）から出ることがあります。ジアルジアの主な症状は、軟便と下痢です。軟便が続き、下痢を繰り返すようであれば、ジアルジア症を疑った方が良いです。

今は検査キットや検便で極わずかな原虫を調べる事ができます。

検査キットは大変高性能なので極わずかでも反応しますので、反応は良好でほとんどの個体に見られます。

極わずかでも居た場合は駆除して置いたほうがいいです。常用菌になってしまうと、ストレスがかかるたびに、

活発化して下痢や軟便を繰り返します。

１回の駆除で駆除しきれずに在菌していたジアルジア原虫が活発化して下痢を繰り返したという報告も数件

ございました。そのような場合はあわてずに適切な駆除をお願い致します。

回虫などの場合は駆虫剤を投与すればほとんどの虫は駆虫できます。ところが原虫とよばれるジアルジア

などのミクロの虫たちは細菌のように小さく抵抗力が低下しているスキを狙って腸内を荒らします。細菌に

ちかい虫ですから駆虫剤は効果がないので殺菌剤や抗生物質のようなお薬を少量、長期に渡って投与する方法

で退治します。当店では便の状態が悪い個体にフラジールを一定期間服用させております。しかし、すべて

の原虫の駆除には至らないことはご了承ください。また、駆除しきれなかった原虫が、お引渡し直後から

ストレス性の抵抗力の低下により急激に増える事が多いです。子犬の体調をよく観察して、下痢、軟便が続く

場合はしっかり駆除してくださるようお願い致します。

トイレトレーニングについて

お迎え後に一番苦労するのがトイレトレーニングで弊社でも、一番力を入れているしつけです。

サークル内では１００％の数字を出すまで練習します環境が変わると達成率は下がることもありますが

サークル内では、これまでのしつけもあって割とスムーズだと思いますが、問題はサークルの外へ出している時

でも戻って排泄できるしつけです。このしつけは、飼育環境の中で行うのでお迎えしてからやってもらうしつけですがこれが、知識のないまま行うと、なかなかうまく行かないのでやり方をお教えします。

まずは、子犬のトイレトレーニング（サークルに戻って排泄する事）は、時間がかかることを念頭に置いて根気よく教えてあげてください。

弊社でやっているトイレのしつけのポイント

一番、大切なのは、排泄を済ませてから出す事を徹底することです。

サークルに入っていると甘えて、抱っこしてほしいと鳴く事があるかと思います。あまり過度に鳴くときは、抱っこして、少し放して遊んであげるといいのですが、ただ、やみくもに放したり、入れたりではトイレを覚えてくれません。

鳴いたから放すではなく、排泄したら放してもらえると覚えさせることが大事です。

大変かと思いますが、排泄を待ってサークル内のトイレでできたらほめてそのタイミングで、

「おりこうさんだね！じゃあ、あそぼうか？」と放してあげてください。

マナーウェア（紙パンツ）という商品があれば便利です！

成長に合わせてサイズが豊富ですし、紙なので使い捨てで楽です。放して遊ばせるときはこれを使用するといいです。

マナーウェアはケージ内では必ず外してください。そして、排泄させてからリビングに放すことを徹底したほうがいいです。

リビングでマナーウェアにおしっこ（ポーズ）してしまったときは無反応でいてください。

その時慌ててももう遅いのでまずは、何日か、そのような行動が見られたのであればこの子は、放してからどのくらいのタイミングで尿意を催しているのか観察してみてください。

そして、例えばおしっこしてから放したのに１０分ほどでマナーウェアにしているようだと気が付いたなら１０分毎に一度サークルに戻してパンツを脱がせて排泄を待ってみてください排泄パターンを観察して覚えてしまえばタイミングがつかみやすいですよ！

ただ、臭いをかいで歩き、おしっこしがでそうなとき、未然に防げるのであれば抱いて、パンツ外してサークルに戻してください。でも、放している時も、３０分位したら、サークルに戻して排泄を促してください。

パンツを外して、サークルに戻します。遊びの最中に戻されると、人間の子供と同じで「ぎゃん鳴き」（自分の思いが通らないとぎゃんぎゃんと鳴く）することがありますが、しばらく無視して鳴かせてください。

膀胱が刺激され、おしっこが出ることがあります。そんな時はすごくほめてください。

それを繰り返すと、サークルに戻ると排泄、また、おしっこしてから、サークルから出すことを繰り返すと、遊ぶ前に排泄と覚えさせることができます。

おしっこがでるかとじっと見ることは禁止です。

視線が気になり、自分に関心が向いていると思って「ぎゃん鳴き」（意識をこちらに向かせようと過度に要求して鳴く事）に集中してしまいます。

見ていないふりして、背をむけて鏡などでチェックして、おしっこしたら、とにかく「褒める」を繰り返します。

ポーズをとった瞬間に、急に振り向き、リアクションがあると止まってしまうので、ポーズ確認したら、１０秒ほどまって排泄終わったタイミングでほめ殺しです。

何度も繰り返して、１か月も過ぎる頃にはだいぶ理解してくるはずです。

遊びの最中に自分でサークルに入ってトイレの上でマナーウェアにおしっこ（ポーズ）したときはたくさん褒めてください。

こちらは、状況としては、だいぶ後、（平均トレーニング開始から３か月以上～）自らサークルに戻って排泄できるようになってからは、そのような行動をするかと思いますがトイレに戻った時点で、パンツは外してあげてください。

うんちは、もっと時間がかかりますがまずはおしっこを頑張ってください。

おしっこが完璧になった頃に、おしっこ同様に、うんちしたら放すトレーニングを重点的に行ってください。（おしっこ同様、したら放すはすぐに初めてもOKです）

うんちは、ごはんを食べた後のタイミングが出やすいです。

うんちも、したら「褒めて」放すことを繰り返して最終的に、生後１歳なる頃には、普段はリビングに放れていて排泄の時に、サークル内のトイレに戻るという生活スタイルができてくると思います。

こちらで基礎を徹底して教え込んでいるのでトレーニング受けていない子よりもだいぶ楽だとは思いますが

トイレトレーニングは継続的で徹底したトレーニングが必要です！大切なのは根気とご家族の協力と努力です。

サークルはお留守番の時だけ使用して普段は、ご家族とともにリビングで自由に過ごしていることを１歳過ぎる頃までを理想として、頑張ってください。よろしくお願いします。

ベッドとトイレの配置について

ベッドは入口側に配置、子犬に近づくときには必ずベッド側からです。

トイレ側から気配を感じると、飼い主様に近づこうとして排泄物を踏んでしまいます。朝の排泄処理はベッド側から近づき子犬をキャリーなどに移動させてから行うとスムーズに出来ます。犬は寝起で排泄しますので排泄を待ってから褒めて、トイレ交換を繰り返すと、排泄すると褒めて抱っこしてもらえると学習しますので一連の動作を関連付けさせる事はとても有効です。

オシッコを失敗しても叱らないことです。叱るとマイナス効果です。ワンちゃんは怒られていることは理解しますが、何で怒られているのかわかりません。オシッコしたこと自体を怒られていると理解し、飼い主の見えないところでそっとする子になってしまいます。トイレの躾の基本は、トイレで出来たら褒める、失敗したら無視してサッとかたづける・・・です。ベッドが汚れたら臭いを残さないように、臭い消しなどできれいに拭き取ってください。洗える物は可能な限り洗ってください。

図 1　ベッド

当店では区別がつきやすいようにベッドとトイレを半分にわけて入れています。ベッドがすべって動かないようカゴの中にセットしています。その方が、ぴょんと飛び出てトイレに向かう行為を排泄の度にするので体で覚えやすいです。まずはサークル内で完璧になってから少しずつ行動範囲を広げて行く事が基本です。

トイレを待つ間のギャン鳴き

トイレを待つ時でも、子犬にはその意図は理解できないのでなんで抱っこしてくれないの！なんで構ってくれないの！と訴えています。それを無視することは、小さな子犬にとっては悲しくつらい事ですので、その気持ちをどのように受け止めるかは、考え次第かと思うのすが、私の考えは甘え鳴きがある時は、躾よりも子犬の気持ちを優先して抱っこしてあげてほしいです。

それが、絶対的に正しいとは言い切れないので、他のドックトレーナーのアドバイスも聞きながら情報を総合した上で臨機応変に対応してくださるようお願いします・・・・改善方法の一つとしては

近くにいるから甘えているのかもしれませんので、ケージ全体にシーツを覆いかぶせて見えなくしてケージから距離を取る（２メートル位）だけでも、甘え鳴きは止んでくれるかもしれません。

近くに気配があれば甘え鳴きしてしまいます・・・・また、その状態だと、精神的にトイレどころではなくとにかく出してほしいとパニック状態になっているので、一度抱っこしたりしてなだめて、気持ちの方向性をリセットして落ち着いてからケージに戻すとしてくれるかもしれません。

また、マナーパンツを着用して、まずは放してあげて１回目はマナーパンツ内に排泄させてしまって、そこをスタート地点として後は遊ばせておいて３～５時間に一度、休憩と食事をとるようにしてサークルに戻して、シーツを掛けて距離を取ると、遊び疲れで、ごはんもたべてお腹いっぱいになると眠り自分で休憩をとると思います。まずは、色々とやってみてくださいね！

抱っこバックについて

子犬は赤ちゃんと同じで何かを伝えるために一生懸命鳴くのですが、なるべくなら、鳴かせない環境を作ってあげてお互いに負担のないように暮らさせてあげたいと思いますので、抱っこバックのご用意をお勧めします。

前は、弊社で手作りしておりましたが現在は生産しておらず、市販の商品をお買い求めいただくのですが、今は時代も変わり、色々配慮がなされた商品もたくさん出てきましたので、弊社が手作りしていた商品と同等にお使いいただけるかと思います。

抱っこバックの効能はこちら http://blog.livedoor.jp/puttindogs_oodate/archives/cat_66422.html

「ペットスリング」という商品名で検索すれば色々でてきます。飛び出し防止がきちんとなされている商品であれば大丈夫ですので選んでみてくださいね！

食べているフードについて

現在、弊社では子犬の離乳食が始まるとプロパックとロイヤルカナンを混ぜて与えておりますがプロパックは手に入りにくいので、比較的どこでも手に入りやすいロイヤルカナンのフードをサービスでお付け致します。

無料でお付けするロイヤルカナンのヘルスサポートプログラムのお手続きをお願いしたくご案内させて頂きます。

添付画像の QR コードを読み取って、進めて頂きますと最後にお店のスタッフに画面を見せてくださいと表示になるのでその画面をスクショして私に写メール頂けないでしょうか？

登録のご確認後、フードをサービスさせて頂きます。

図 2 ロイヤルカナンフード

図 3 ロイヤルカナンフードのヘルスサポートプログラム QR コード

QRが読み取れない場合はこちら

ペット保険に関して

今回のご契約にお付けしている保証は生命（死亡）保障で健康（病気やケガ）保障は付いておりませんので個人的にペットの健康保険に加入されることをお勧めします。

今は色々ありますので、パンフレットなど取り寄せして調べてみるといいです。

子犬は環境変化により体調を崩すことがあり、診察を受けるタイミングとしてはお迎え後 1 ヵ月未満で、咳の症状、下痢や嘔吐、食欲不振などで受診することが多いように思います。

送犬の為にシャンプーしたり、飛行機や車に乗ったりで慣れないことが立て続けに起こり抵抗力が下がって

しまうとこの時期に起こりやすいケンネルコフに感染する可能性はあります。

もちろん、ワクチンを済ませていますが子犬の場合、母犬の免疫が残っているとワクチンが効かない空白の

時期があります。

抵抗力が弱りやすい環境変化の時期と、母犬の免疫が切れてしまった時期が重なってしまう場合があります。

つまり、ワクチンを打って、抵抗力がつくまでは無防備な状態となっておりますので、他の感染症にも十分

注意が必要な時期になります。

３回終えるまでは確実な抗体はできないというのが一般的な考え方ですので念のため、お迎え後数週間で

病院を受診されるときには医師や看護婦以外の誰かに触れさせたりしないでください。

特にパルボ感染は命にかかわりますし、病院内で感染しやすいのでお気をつけ下さい。

いずれ、３回目のワクチンを受けに病院に行かなければならないので病院に行った際にはドアノブなど触った

手で、子犬に触れることがないようにご本人が手の消毒をして頂けたらと思います。

パルボの場合は、アルコールが効かないので塩素系の消毒（次亜塩素系のウエットテッシュ）が効果的です。

ケンネルコフや軟便に関しては命にかかわることはありませんが食欲不振があれば、体力低下から危ない
場合もありますので早急に治療に入って頂くためにも、ペット保険の加入はぜひ前向きにご検討ください
ませ・・・どうそよろしくお願いします。

今はドックトレーナーが YouTube で多数の動画をアップしていますから、とにかく多くの情報を取り入れたうえで、様々な方法を試してみて、どのやり方が自分の子に合っているのか探りながら子育てして頂きますようお願いします。

下記のドックトレーナーさんは、私の考え方と同じ指導法の元でユーチューバー活動されている方たちです。動画だと困ったときにすぐに見ることができますし、視覚的に入ってくるので理解しやすいと思いますのでご紹介させて頂きます。

わんちゃんの行動には必ず意味があります。

その意味や行動学の知識を身に着けて、今後訪れるであろう

甘噛みやトイレの失敗などに慌てないために

ご自身にしっかりと知識を蓄え、困ったときには再度確認するという方法で

ご活用ください。

すべてクリックでご覧いただけるようにしておりますので、いつでも見れるようにして

飼育に役立てください

子犬を迎えたら

お留守番、甘え鳴き、夜鳴き他

甘噛みについて

トイレ

おもちゃ

その他悩み